

日 時 令和元年10月30日(水) 5校時

場 所 5年生教室

児 童 22名

指導者 三浦 一太

佐藤 光輝(学習支援)

1 単元名 自然災害のメカニズムや被害を知り、自分たちの生き方を見直そう

2 単元の指導構想

本校の防災教育の目標の1つに「災害のメカニズムを理解し、危険を認識することで防災に対する意識を高める。」がある。また、高学年の重点目標に、「様々な場面において、災害時に安全な行動をとれるようにするとともに、『命の大切さ』について考え、発表する活動を通して、震災の出来事を語り伝えていくことができるようにする。」がある。そこで本単元は、自然災害が発生するメカニズム、東日本大震災の被害の様子と復興に向けた取り組みについて調べる学習を中心に展開し、釜石市鵜住居に住んでいる自分たちの生き方について考えることで、児童の防災に対する主体性を高めていく。

子どもたちは、これまでの防災学習で地震や津波に関する大まかなメカニズムや言葉、そして避難の重要性は認識している。高学年となり、さらに詳しい内容を知ったり、自ら課題を追求するために情報を収集し、その情報をまとめ、発信したりできるようにしていきたい。また、これらの活動を通して、鵜住居に住んでいる自分たちが何を語りついでいくべきなのか考えられるようにしていきたい。

3 単元の指導計画(25時間)

第1次 自然災害はどのようにして起きるのだろうか・・・・・・・・・・・・ 7時間

第2次 東日本大震災での津波被害や復興に向けた取り組みを調べよう・・ 12時間(本時第6時)

第3次 これまでの学習を振り返り、自分たちの生き方を見直そう・・・・ 6時間

4 本時の指導計画

(1) 目標

東日本大震災当時に身近にあった支援の内容を写真や文章資料等の複数資料を関連付けて調べることを通して、国内外からの多くの支援により自分たちの生活が支えられていたことを理解し、自分たちにできることを考えようとしている。

(2) 評価規準【思考・判断・表現】

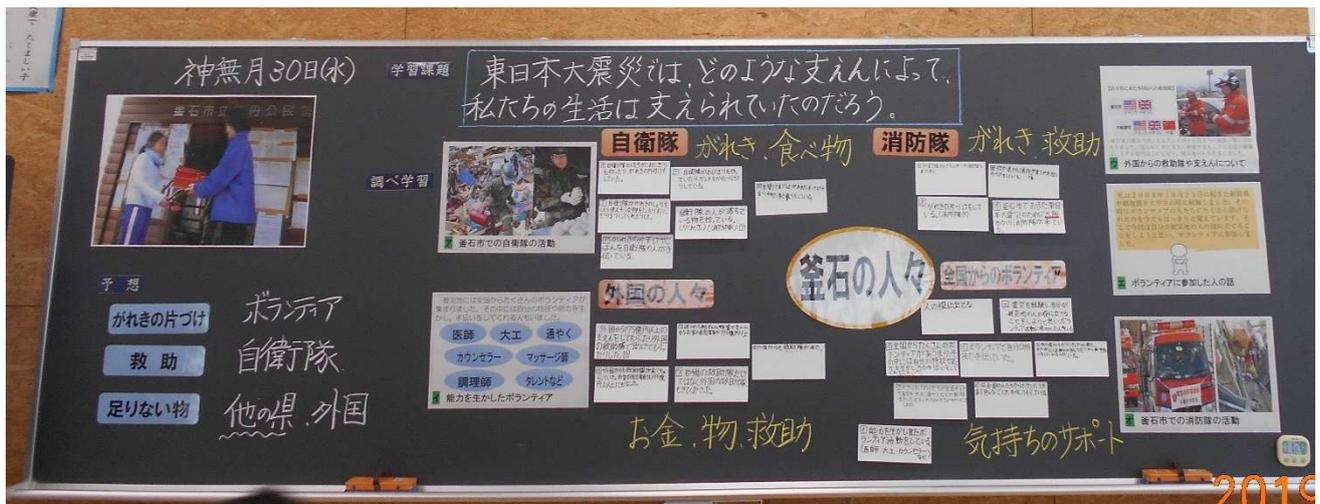
ねらいを達成している児童の姿	努力を要する児童への支援	評価方法
東日本大震災当時に身近にあった支援の内容を写真や文章資料等の複数資料を関連付けて調べることを通して、国内外からの多くの支援により自分たちの生活が支えられていたことを理解し、自分たちにできることを考えようとしている。	資料から分かることを確認させたり、板書を振り返らせたりする。また、ノートへのまとめ方を個別に指導する。	グループ内での交流と全体での発表、ノートによる評価 (発言内容、記載内容)

(3) 展開

段階	○学習内容 ・予想される子どもの反応	○支援	◇準備 ◆評価
導入 3分	<p>1 本時の課題を把握し、学習課題を設定する。</p> <p>東日本大震災では、どのような支援によって、わたしたちの生活は支えられていたのだろう。</p>	<p>○自分たちにとって当たり前に使っているランドセルも支援物資として送られてきたこと捉えさせ、学習の動機付けをする。</p> <p>○本時の学習のゴールを確認する。</p>	<p>◇写真 (支援物資のランドセル)</p>
展開 35分	<p>2 予想する。</p> <p>(1) 予想を話し合う。</p> <p>(2) 予想を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食べ物や毛布などを送ってくれた。 ・がれきを片付けてくれた。 ・救助活動をしてくれた。 <p>3 支援の内容について知る。</p> <p>(1) 個人で調べる。</p> <p>(2) グループで調べた内容を分類整理しながらまとめる。</p> <p>(3) まとめた内容を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自衛隊や消防ががれきの撤去や炊き出しなど色々な活動をしてくれた。 ・たくさんの国が日本に救助隊を派遣したり、物資や義援金を送ったりしてくれた。 ・全国から特技や能力を生かしてボランティアに来てくれた人もいた。 ・以前に自然災害で被害にあった地域の人たちもボランティアに来てくれている。 <p>(4) 自分の家庭で実際にあった支援について知る。</p>	<p>○学習課題に対する予想を整理して板書し、学習の方向付けをする。</p> <p>○誰が支援活動を行ってくれたのか問いかけ、どのような人が支援してくれたのかという視点を持たせる。</p> <p>○複数資料から支援の内容を示す根拠となるものを選択させ、分かったことを箇条書きでノートに書かせる。</p> <p>○複数の資料を関連付けて考えられる場合は、分かったことをまとめるように伝える。</p> <p>○発表時には、内容を関連付けたり付け加えたりさせながら発言をつなげて発表させ、板書に位置付ける。</p> <p>○選ばれなかった資料についても、補助発問をして内容を確認する。</p> <p>○支援物資の内容について紹介する。</p> <p>○保護者へのアンケートをもとにして各家庭にあった支援の内容を紹介し、自分たちの生活が支えられていたこと実感させる。</p>	<p>◇資料シート (釜石市での自衛隊の活動) (釜石市での消防の活動) (外国からの救助チームや支援) (能力を生かしたボランティア) (ボランティアに参加した人の話)</p> <p>◇グループ学習用短冊</p> <p>◇写真 (支援物資の粉ミルク)</p> <p>◇保護者アンケート</p>
終末 7分	<p>4 本時のまとめと振り返りをする。</p> <p>(1) まとめと振り返りを書く。</p> <p>(2) まとめと振り返りを発表する。</p> <p>【期待するまとめと振り返り】 東日本大震災では、直接的な支援活動をしてもらったり、物資や義援金を送ってもらったりするなど、国内外の人々からの支援によって私たちの生活が支えられていた。 自然災害が発生した時、自分には何ができるのか考えていきたい。</p> <p>5 次時の学習内容を知る。</p>	<p>○板書をもとにして本時の学習を振り返らせる。</p> <p>○予想と調べた内容を比較し、本時の学びを確かめる。</p> <p>○学習課題に対するまとめと、振り返りの視点をもとに自分が考えたことをノートに記述させる。</p> <p>○日本は自然災害が発生した国に迅速に支援をしていることなど、支援のつながりについて次時は学習することを伝える。</p>	<p>◇ノート</p> <p>◆東日本大震災では、国内外からの多くの支援により自分たちの生活が支えられていたことを理解し、自分たちにできることを考えようとしている。</p>

6 子どもたちの学習感想

- ・自衛隊の人たちやボランティアの人や外国の救助隊などが食料を運んでくれたり、がれきなどの片づけをしてくれたりしたことが分かった。自分たちも震災の時にいろいろな人たちに支えられたので、自分にできるボランティアをしたいと思った。
- ・自衛隊や全国からのボランティアの人、外国などの救助隊が大活やくしてくれたことが分かった。これまでの学習で東日本大震災のことや活やくしてくれた人たちのことがいろいろ知れた。わたしもいつか人の役に立ちたい。もっとこういうことを知りたい。
- ・東日本大震災の時は、たくさんの支えんがあつて小さかった自分が大きくなれた。この支えんがなかったら大きくなれなかったかもしれない。支えんしてくれた人たちに感謝して生活しい。もし自分にできることがあつたらひがいにあつた人たちを助けて笑顔を増やしたい。



6 参会者からの主な感想

- ・これまでの支援等について調べた後、「これから自分たちにできることは何か」まで一人一人が具体的に考えることができている、主体的な姿勢がすばらしいと思いました。
- ・災害後の支援について学習していましたが、大人にとっては当たり前のことでも、子どもたちにとっては知らないことで、改めて学習していかなければならないのだと思いました。
- ・保護者へのアンケートを通じて、地域の生活の中の支援を受けた事実の掘り起こしがあり、子どもたちが共感しながら学んでいました。
- ・厳選した資料から読み取って学んでいました。一斉指導で確実に読み取るにはちょうど良い量だったかもしれません。今日の授業をふまえて、自分で支援について家族等にインタビュー活動を行ったり、複数の資料を見て選んでまとめる活動を行ったりするなど、もう少し広げて主体的に学ばせてもよかつたかなと思います。より自分事として考えることができるように気持ちを持たせたいと感じました。
- ・家族からの話を聞いたことから、「たくさんの支援を受けて大きくなれた」とまとめを紹介した児童の言葉に、ありきたりではない、感謝の思いの表れが感じられました。資料やアンケートの提示に引き付けられました。

7 指導を終えて

〈成果〉

- 単元の指導目標を明確に教師側が捉えることで、単位時間の指導内容を整理して学習を進めることができた。
- 導入場面では短時間で学習の動機付けと方向付けをすることができた。
- 知識を習得する場面では、教師が教える内容と子どもたちに気付かせる内容を整理して指導することができた。
- 保護者アンケートの結果を授業に用いることで、子どもたちが自分事として学習内容を捉えることができた。
- 単元を通して振り返りの視点（「自分にできることは何か」「誰に何を伝えるべきなのか」「さらに知るべきことは何か」）を明確に示したことで、子どもたちが目的意識をもって学習することができた。

〈課題〉

- ▲ 単元計画よりも時数を増やした時間や減らした時間があったので、単元全体の時数の吟味が必要。
- ▲ 授業では、教師側が準備した5つの資料をもとに子どもたちが知識をつなげて学習を進めていったが、情報を限定した資料だったため子どもたちの考える範囲も狭くなってしまった。情報量をもっと増やした資料から、課題解決に向けて必要な情報を取捨選択する学習方法も考えられる。
- ▲ 支援についてのアンケートでは、保護者からたくさんの回答をいただいたが、その内容を十分に生かしたか。授業でどのような形で取り入れていくか検討が必要。